

11/6 (日)
10:30-12:00
入場無料, 資料あり

受付 10:00 開始
 先着 300 名
 事前申込不要

災害とレジリエンス

—平成 28 年熊本地震災害の教訓—

会 場：日本科学未来館 7 階未来館ホール

<https://www.miraikan.jst.go.jp/guide/route/>

開催趣旨

サイエンスアゴラは 2006 年から「国立研究開発法人科学技術振興機構」が主催して始められ、今年は第 11 回を迎え、11 月 3 日から 6 日まで東京・お台場地域で開催されます。

研究者・専門家と社会の様々なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供することを目的としています。

このたびのサイエンスアゴラへの一つの企画として、「災害とレジリエンス—平成 28 年熊本地震災害の教訓—」を開催します。災害に対するレジリエンスは予測力、予防力、対応力で構成されます。予測力を担う理学、予防力を担う都市計画、工学、対応力を担う社会科学のそれぞれの立場から、熊本地震災害の対応を踏まえ、建物や都市の強靭性を確立し、災害の応急対応・復旧・復興を確実・迅速に進めるために、科学・技術、学術が具体的にどのように役立つか、今後なすべき方向性はどこにあるかを、多くのステークホルダーと議論したいと考えています。

主 催

国立研-究開発法人科学技術振興機構 (JST)
 日本学術会議 (SCJ)
 一科学と社会委員会科学力増進分科会
 一科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会
 一防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

共 催

国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

後 援

内閣府、外務省、文部科学省（申請予定）独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、公益社団法人応用物理学会、防災学術連携体

プログラム

10:30 ~ 10:33 開会挨拶

林 春男（日本学術会議連携会員、
 国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

10:33 ~ 10:47 「予測力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：地震動

平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

10:47 ~ 11:01 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：社会基盤

本田利器（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

11:01 ~ 11:15 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：宅地住宅被害

五十田 博（京大大学生存圏研究所教授）

11:15 ~ 11:29 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：応急対策

田口雄一（熊本県知事公室危機管理防災課審議員）

11:29 ~ 11:43 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：生活再建

林 春男（前掲）

11:43 ~ 11:57 防災減災・災害復興に関わる学術連携の重要性

米田雅子（日本学術会議会員、防災学術連携体幹事 / 事務局長）

11:57 ~ 12:00 閉会挨拶

小池俊雄（日本学術会議連携会員
 東京大学大学院工学系研究科教授、水災害・リスク
 マネジメント国際センター (ICHARM) センター長）